

福島第一原発の事故について

ふた言目には、「**想定外**」という。誰かが想定したのだろうが、その根拠は何か？ 東京電力（以下東電）の幹部は、TVで一生懸命に謝っているのだが、謝るだけ。記者が言う。「ちょっと違うんじゃないですか？ あなたのお気持ちを聞いているんじゃないやありません。事実はどうなっているのかを知りたいんです。」TVの記者会見中に3号炉に海水をヘリコプターでかけようとしている。当の幹部たちには知らせていなかったらしく、驚いていた。安全なところに自分を置いて客観的に説明しようとしているらしいのだが、そんな謝罪をする時間があるなら、自ら現場に行け！ 米国の新聞に「**50人が最後の砦**」と表現している。かれら職員や下請け、自衛隊・消防隊・警察は命がけで任務を果たそうとしている。被曝覚悟である。

原子炉の事故で水が入らなくなり、排気する回路の弁が閉まったから、とかNHKの解説も何を説明しているのかわからない。（自分でもわかっていないのではないか） ようやく1時間ほど経過してから、弁の数が11あり、圧が上がれば自然に開くという。手動で動く弁があるならそれを利用すればいいのに、肝腎のことを言わないから、聞いている方はまったくわからない。マイクロシーベルトな

ど普段聞いたこともない単位である。・・・法律の第何条の第何項に基づいて、とかよそ事ばかり言っている。・・・そんなことを聞いているんじゃない。「溶融」などと耳慣れない表現よりも「メルトダウン」の方がわかる。いわゆるチャイナ・シンドロームか？と聞きたい。つまり、原子炉は爆発するのか、水をかければ治まるのか。

結局、日本中の消防隊を動員して、危険な「目に見えない敵」との戦いに従事させる。海江田などはひどい。東京消防庁の連中が放水するかどうか、たとえば放水すれば一時的に放射能濃度が高くなりはないか？ 当然の逡巡である。海江田はなにを言ったか。「放水しなければ処分することもありうる。」 アホ！ お前が行け。もともと政府がだらしがなくて、だから、放水にしてももっと早い段階からならもっと安全に出来た可能性が高いのに、いよいよとなつてから強制するのは、自らの無能を曝け出したものではないか。ましてや海江田ごとき、管轄外のいわば安全な所にぬくぬくといてゴチャゴチャ言っていないで、現場に行って確かめろよ。

そもそも菅が、「災害対策基本法に基づく災害緊急事態」を宣告しておけば問題は早くにおさまったかも知れない。無能な輩がやる気をだすのは、もっとも邪魔になる。

元々、あの場所には原発を建設するべきではない、と神戸大の教授かが言ったそうだが、地震・津波を想定していたのかどうかボクは知らない。(建設したのは1971年である。あとで述べる。)

自宅を建築してくれた建設会社の社長が阪神大震災のとき7時間も歩いて神戸まで行き、そして言う、「耐震強度はいくらでも強くできるんです。ただ、それにつれて費用がかかりますが・・・」

建設当時の東電の幹部は、出費を惜しんだのではないか？ 原発のような危険な建築物を建てるときは、「想定」している以上の災害を「想定」するべきだったのだが、東電も時の政府である自民党政権も容認した。御用学者が、いっばしの口を利いて適当に「想定」した数字にとびついたのでないか。ボクにはそう思えてならない。

ボクは、今回の原発事故について、ゴルゴ13のもつ「やさしさ」あるいは「相手に敬意を表した」数少ないシーンのひとつである(ひょっとしたら唯一かもしれない) ロサンゼルス原発事故の話を出す。(リイド社・SPコミックス：ゴルゴ13 第64巻収録「2万5千年の荒野」1984年作) これは創作だけれども、少なくとも原発職員は決して逃げ出したりせず、自ら危険な作業に参加することを申し出る。この時点でスタッフの献身にすでにゴルゴは気づいてい

たのだが、技術主任が命を賭けて事故を未然に防いだことに対し、被曝しているから近づくな、という技師の言葉に対しタバコを喫おうとする技師のタバコをゴルゴが取り上げ、みずから口にくわえさせて火をつけてやる、というシーンがあった。その眼差しがなんとも言えないものだった。珍しいシーンである。……原発事故の説明についても、TVの解説を聞いているより、この劇画を読んだ方がわかりやすい。

今、原発の職員や下請け（何段階もあるらしい）の連中は、ゴルゴでなくとも頭のさがる思いで自らの仕事に邁進している。

原発のような危険な建造物を造るなら、**最大の被害を「想定」すべきなのである**。先ほど1971年に建設されたと書いたが、M9を超える地震はすでにいくつも発生していて、何も何百年も前のことではない。1952年にはカムチャツカ半島、1957年にアリューシャン列島にM9.1、1960年にチリ沖M9.5（史上最大と言われ日本にも津波の被害が発生した）、1964年アラスカ南部M9.2と、直近まで大地震が発生している。何を根拠に「大丈夫だ」といったのだろう。さらには御用学者の言に、これ幸いと乗ったのも東電だし、当時の政権も認可した。M9地震は環太平洋地震帯では、ほぼ必ず発生する

ものと考えるのが妥当だろう。・・・このあとの大地震は2004年12月26日のスマトラ沖の地震になるのだが、幸い日本を乗り越して行ってくれただけである。・・・今でもTVで南海道地震の説明をしていて、まだM8.4とかいうのがいるのだが、その根拠は何に拠るものなのか！ 日本で今までM9のおこらなかったのが不思議なくらいである。(月刊誌NEWTON:2007年10月号に「M9大地震」の特集号がある。阪神大震災の1000倍のエネルギーと表現している。)

若狭湾にいくつも原発が建設されて、「原発銀座」と揶揄されている。60年前の福井大地震を忘れたとは言わせない。関西電力はどの程度の災害が起こるのか「想定」しているだろうか？ 今からでも遅くない。津波に対しても、できる限りの補強をするべきだろう。

自衛隊も警察も消防庁も、原発にからんで自分たちが被曝するかも知れないことを考えている。スタッフも、とりあえず家族の無事を確かめてから、現場に戻っている。ヘリの連中も陸上からの放水をおこなっている連中も被曝覚悟の上である。

もっとひどいやつがいる。原子力委員会かなにかの長老かなにかが言う、「被曝覚悟の決死の仕事で、遂行していただきたい」・・・何を寝ぼけたことを言っているんだ！ そうでなくともまだ先の長い

連中が必死で仕事をしているのに、おまえの方が先が短いのだから、おまえが行け！ 安全なところから何をふざけているんだ！ 言うまでもない、彼らは命がけなのだ。……そういう連中を、戦争中に山ほどみてきたんじゃないですか？ 自分には行けないけど、若い人に頑張っていたきたい、とかなんとか……

このたびの原子炉火災や放水に関しては、いくつもの感動話があって、たとえば東京消防庁の隊長が説明しながら、部下の努力を思い出したのだろう、言葉にしばしつまって、「……隊員の士気はきわめて高く、……」と語ったし、責任者である部長は、自ら先頭に立ち、自分よりうしろにいる部下は少なくともオレよりも被曝量が少ないだろう、計測器のアラームがうるさく鳴っていましたが、と語った。放水のためのホースも普段は重いから車で運ぶのだが、瓦礫が散乱しているため運べない。50mのホースは1本で100kgもあるそうである、隊員はみんなで力を合わせて、人間の力で7本運びました。一定時間以上は仕事をしてはいけないので、大急ぎでした。石原慎太郎が消防隊の労苦を思い、目の前で落涙した。建屋の爆発で散乱した瓦礫を除去するのに、自衛隊の戦車や建設会社の連中が活躍した。……本来なら鹿島建設なのに、大成建設の社員が「こわ

かったけれども、瓦礫を除去するのがわれわれの仕事だ、子孫や日本をまもるために・・・」と被曝覚悟で動いた。消防隊の連中は、夜間の放水に際しては社員（下請け？）が周辺を電気で照らして明るい状態を保つようにしてくれた、とも言う。・・・社員の中には逃げ出したのもいるのだがTVで放映する意味があるのだろうか。敵前逃亡した人間の弁解よりもっと大事な放映すべきことがいくらかでもあるだろう。

東電幹部は事故隠しを目論んでいる、などと大声で言う気もないが、今までの福島県に対する態度や、対応の鈍さが反映した結果の被曝した野菜や原乳産地の範囲がひろがっていくことを見れば「隠そうとしているらしい」ことはわかる。事故の処理のすべてを現場の連中に任せ切りで、自らは安全なところで命令しているだけだ、と非難されても仕方がない。ましてや、すべてではないけれども、東電の職員が逃げ出して下請けの業者（第7次とか第8次とかまであるそうだが）が走り回っている状態だったらしい。この事故にどれほど多くの本来「無関係」な人々が危険なところに動員されたのだろう。東電社長が「現場から撤退したい」・・・さすがに政府も「国民を見捨てるのか！」・・・現場に聞いたら、「まだやりようがあ

る。」・・・要するに「現場の声が東電幹部にはとどいていないのである。」あるいは握りつぶしているのかも知れないが。

経済活動のためにも電車は止めてはいけない。海江田が不用意に余計なことを口走って、東京近辺はほとんどパニックにおちいりかけたのだが、日本人は世界中の新聞でも驚くくらいに、暴動も略奪もおこさなかった。節電なら電車をとめることなく、あちこちの不要なネオンや家庭でもできる節電法があるだろう。経済活動をとめるまでもなく、できることはいくらでもあるはずである。今まで無為に放免してきたツケがまわってきただけのことではないか。で、そのため自分たちの帰宅の足が奪われただけではないか！（どうもこの政権の一翼を担っている閣僚などには、何を言ってもいいかよくないか、の判断ができないのが多い。）

野菜や牛乳などの放射能汚染については、**安全と言いながら口にしない方がいい、**などと御用学者はいう。じゃやっぱり危険なのではないか？ その根拠は何なのか、きちんとした相手が理解できる言葉で解説ができないからいたずらに不安を煽ることになる。

「根拠」といえば、避難区域を原発から 20km といい、のちに 30km 圏内にできれば避難を、と範囲を広げたのだが、その根拠がわからない。どうせ「専門家」が言ったのだろうが、「（「専門家を信用するな！」は以前に書いた。）線源の放射能レベルがわからない段階で 30km がでてきた理由がわからない。現に 30km 以上離れた地域の野菜や原乳が汚染されているし、野菜の種類も徐々に増えてくる。さらには福島県のみならず、東京都の水源までもが汚染されている。大丈夫だと言いながら、乳児には飲ませるな！・・・その点、米国ははっきりしている。スリーマイル島事故の教訓もあるのだろうが、原発から 80km (50 マイル) 以内に住んでいる米国人の帰国を指示した。80km も根拠のない数字かも知れないが、風向きによってどこまで放射能が飛んでいくのかわからないのだから、できるだけ広い範囲に危険が予測される、という「想定」のもとに距離を決定すべきもので、一律に何 km 圏内とかいう表現でしぼるのは、あまり賢い方法ではないように思う。

東電の社長が福島県知事に謝罪をしたい、と面会を申し出たが、遅すぎたのと他県に避難せざるを得なかった県民の無念を思えば、知事は当然のことながら拒絶した。（後述するが、以前に佐藤栄佐久

という知事がいて、東電のやり方に不満をもっていたらしく、本も著しておられる。そしてこのたびの事故は**人災だ**とまで述べておられる。) いかにも、事故に対する反応が鈍すぎたし、その後も一進一退をくりかえし、社員はじめ自衛隊も消防隊もふりまわされて、不眠不休で働いている。謝罪が悪いわけではないが、そんなことよりも現場に行って彼らをねぎらおうとは思わないのだろうか？

2011. 03. 23.

ここまで書いてきて、その後新たな情報が続々と入手できるようになってきた。ひとつは、共産党の吉井英勝議員の質問。またこれが的を射ている。たとえば非常時用の電源が使えなくなったときの対応を質問したり（それに対する答弁は、非常に小さい確率ながらもそうなる長時間に渡ればメルトダウンの可能性もでてくる。・・・実は考慮していなかったらしい。**電源の復旧の訓練では、電源車のコードの長さが足りず、繋げなかった。災害用のはずがそうではなく、単なるお飾り。**) そのわずか1ヶ月後に福島第一原発で指摘どおりの事故が発生している。吉井さんは、数年前にも5メートルの津波がきたときのことを想定して質問しているが、これに対しても東電には「**危機管理意識がない**」と言われても仕方がない。

たしか防災大臣か何かいたような気がしていたのだが、3月27日になって初めてTVに出演した。初めて見る顔で、現地で必死に活動していてTVどころではなかったのならいいんですが・・・

疑問がずっとくすぶっていて、例の原子力安全・保安院というのはいったいなんなんだ。なにをしているのかよくわからないし、TVで説明していることは他の人からの情報と変わりはなく、いつもあとから起こった事の説明ばかりしている。保安院は必要なのか？もともと何のために作られたのか？・・・これなら「**関西電気保安協会**」のほうがはるかに有益だ。・・・あとでわかったことなのだが、東電と保安院と御用学者のトライアングルができていて、保安院は経済産業省に所属している、まあ天下りの場。つまり産官学でお互いに持ちつ持たれつの関係だったらしい。元県知事の佐藤さんのところには内部告発がきていた。なぜなら2002年に保安院が原発作業員の内部告発を2年間に渡って握りつぶしていたことが発覚し、それから知事のところにも30もの下請けからの内部告発がきた。これなら、保安院はいうところの仕分けの対象に真っ先にあげておかねばならなかったのではないか。

福島県と東電はことあるごとに衝突するようになるのだが県とし

ては度重なるデータ捏造に憤りを感じていたし、東電は「裁判も辞せず」とかいろんな嫌がらせや、県が不利益になるようにしたり、県の条例を「あらゆる手段をもってしても潰します」と東電常務が副知事を恫喝したというし、危機管理のなさは、保安院に助けってもらって、国にも伝わらない。国は国で「意見だけは聞きます」と話にならなかったという。(これは自民党政権のときで、国民はこういう態度に怒って政権を変えたのだが、もっとひどかった、という話。)

笑ってしまったのが、東電が政府に伝えても物事が進まない可能性があるからか、密かに直接米軍に支援を依頼した、ということである。自国政府が信用できないなど、恥。しかも米国側に筒抜けになっていて、「日本政府はこの悪状況を回避できない」と判断されたことである。「なにせ初めてのことだらけ」だから、政府がパニックに陥っている。パニックは東電も同じで、(下請けの)現場の人間が危険だとわかっていながら守ろうともしなかった。避難場所への東電社員からの指示はなかったというし、作業員を誘導する前に社員が逃げていた。次々に東電の事故隠しが露見してきて、夏彦さんの「悪事が露見するまで、無実である」が正しい表現になる。

2011. 03. 26.